

「あなたのホームベース」

ルカによる福音書15章8-24節

森島 豊 先生

今年初めに寿町で炊き出しのボランティアをした友人から、支援を受ける人の中に今までには見られなかった若者や女性の姿が多くあったと聞きました。ここでも生活困窮者が増えているのを知ることが出来ます。私が最初に寿町でボランティア活動をしたのは中学生の頃、父に連れられてのことでした。その時私が驚いたのは、ホームレスと呼ばれる人々の集まっているところが思った以上に温かく家庭的で、似たような事情を抱えた人たちが助け合って生きているアットホームな世界であるということでした。そういう意味ではホームレスではなくハウスレスと呼ばれるべき人々と言えるかも知れません。

現在は、ハウスの中でホームを失っている状況で、家はあっても崩れやすい家庭が多いのです。私の学生時代にブームとなった「癒し」という言葉がありますが、この言葉が盛んに用いられる理由は、みんなが疲れていること、そして、役に立たない自分でも迎え入れてくれる場所を持たないことにあります。魂の故郷の喪失と言えるでしょう。今日の主の譬え話には、財産をもらって父の家を出て行く「息子」が出て来ます。自由を求め、自分らしく生きることを望んだ彼の行き先はユダヤ人のいない地で、神を信じない世界でした。神無しで生きて行こうと彼に思わせたのは父からもらった財産でした。しかし、彼が放蕩の末に財産を使い果たした時、友人たちはすべて消え失せ、彼は孤独に追いやられます。父のもとを離れ住みついた地は、助けてくれる人を見出せない世界だったのです。そんな時起こった飢饉の中で、彼は豚の餌のいなご豆さえも与えられなかったのです（ルカ 15：15-16）。彼の自分探しの旅は自己喪失の旅だったのです。この話の前に主は「失われた銀貨」の譬え話をされています。結婚する際に両親から贈られた10枚の銀貨の1枚を失くした女が、かけがえのないその1枚を見つけて大喜びするという話です（同 15：8-10）。これを通して主が言われているのは「あなたを捜す神がおられる」ということです。汚れ傷ついたあなたを必要とされる神が生きておられるということ、そして神のおられるところが私たちのホームだと言われるのです。放蕩息子は我に返り、父のもとへ帰る決断をします。聖書には走り寄って息子の帰還を喜ぶ父の姿が描かれています（同 15：17-24）。あなたを愛する「父なる神」がおられるところ、そこに魂の故郷であるあなたのホームがあると聖書は語っているのです。野球にはホームベースがあって、そこから試合は始まります。私たちの人生も野球と同じく私たちを愛してくださる神のおられるホームベースから始まることを聖書は示すのです。

人生に於いて判断を誤り、失敗を重ねて教会からも遠ざかっている人々がいます。主イエスはそのような人に「あなたが帰って来るのを待つお方がおられる。あなたの傍らに立ち続けることを喜ばれるお方が今も生きておられる。」とおっしゃっています。あなたは一人ではありません。主が共におられることを喜ぶ歌が聞こえて来るところ、そこに教会があります。教会にはあなたの真の家族がいる、あの人もこの人も神と共に生きている、ここがあなたの、私たちの終の棲家です。この場所で私もあなたも神の愛の御手の中で今を生き、安心して死を迎えることが出来るのです。

今朝、主はあなたに「帰っておいで、ホームへ。一緒に生きよう」と伝えたくて譬え話をされました。今、主の言葉を聞いているあなたにバプテスマを受けてホームに帰って来ていただきたい。ここにあなたの本当のホームベースがあるから。大丈夫！主がホームランを打ってくださったからあなたのすることはただ一つ、ホームベースに帰るだけです。（説教要約 羽入田悦子）

***** 感想 *****

過ちを繰り返す汚れた私たちに、「お前こそが必要なのだ。帰って来い」とおっしゃってくださる神。父なる神のおられるホームが人々に溢れる・・・そんなまぶしい光景を暫し夢見たことでした。その中に私も願います。主イエスの十字架の出来事が、命を賭しての主のホームランだったと教えていただきました。ただ、駆け込むだけでよい私たち。測り知れない神の・主イエスの「愛」の大きさに言葉が失う思いです。（EH）